

新たに設定された2か所のスクリーニング場所は、住民の安全を守れない
高浜3・4号の再稼働に反対するよう申し入れ

スクリーニング場所について

納得できる説明は乏しいと、私も思う(おおい町)

住民説明会に内閣府の出席を要請してみる(若狭町)

- * 3月10日に続く今を生きている皆さんは、
若狭の子どもたちを守るため再稼働に反対してほしい(浪江町からの避難者)
- 美山町長谷の検査場所に通じる橋は9トンの重量制限。中型バスも通行できない
- 綾部PAのゲート幅は5メートル。これでは対面通行できず混乱は必至



2月17日、新しく設定されたスクリーニング場所の問題で、おおい町と若狭町に申し入れに出かけた。関西から3名と地元のおおい町・高浜町・若狭町からも4名が参加された。

今回の申し入れの内容は、福井県から兵庫県に避難する場合に新たに示されたスクリーニング場所2か所についてだった。昨年12月に内閣府や福井県等が策定した、高浜原発事故時の防災・避難計画「高浜地域の緊急時対応」で、①綾部市の綾部PA・「あやべ球場」と②南丹市美山町長谷の長谷運動広場が初めて候補地として示された。しかし、この2か所のスクリーニング場所は、既に綾部市と長谷地区住民の避難集合場所として決まっており、30km圏内であること、場所も狭すぎる等々の問題点がある。このままでは住民の安全を守ることができないため、この2か所については見直しを求め、再稼働に反対するよう申し入れた。

それぞれ、最初に質問・要望書^{※1}を提出し、参考資料^{※2}を元に、2か所のスクリーニング場所について、私たちの現地検証や綾部市・南丹市への申し入れ・ヒアリングで明らかになった問題点を紹介した。

浪江町から兵庫に避難されている菅野みずえさんからは、避難の実態、現在の浪江町の様子、ひとたび事故になれば自治体職員が最前線に立たされること等が紹介され、「皆さんは、私が無くしてしまった3月10日に続く今を生きている。私たちを踏み台にしてでも、原発事故を繰り返さないために、再稼働に反対して進んでほしい」と訴えた。

◆「納得できる説明は乏しいと、私も思う」(おおい町)

おおい町役場での申し入れは、11:00~12:30まで、防災担当の総務課と総合政策課から5名が出席された。やり取りで明らかになった点は：

- おおい町の3地区(大島・本郷・佐分利)は綾部PA、残りの名田庄地区は美山長谷を使用することになっている。
- 「あやべ球場」は使用しないのに、その名前が12月の国等の避難計画で使われている件については、はっきり批判する言葉は避けながらも「名前は分かりやすくすべき」。

※1 おおい町への質問・要望書 http://www.jca.apc.org/mihama/bousai/ooi_q_yobo160217.pdf

※2 参考資料 http://www.jca.apc.org/mihama/bousai/ooi_siryoy160217.pdf

- この新しいスクリーニング場所については、昨年春頃に県から話があった。
- 候補地は現状ではここしかないと思っているが、実効性を高めるため訓練は必要。
- 綾部市民約 640 名の避難集合場所でもあり、その場合は使わないと思うが、最悪の事態を想定すれば、福井と京都の住民が集中することはあり得る。
- 「綾部総合運動公園」の体育館は綾部市民の集合場所なので、おおい町の住民が屋内で受けるはずのスクリーニング場所についてはっきりわからない。
- 美山長谷運動広場の場合、スクリーニングを受けた後、道順としては9トンの重量制限がある萱野橋を渡る避難経路となる。しかし重量制限で中型バスでも渡ることは不可能になる。これについて、福井県は「戻って回るしかない」と町に話しているとのこと。しかしそうなれば、スクリーニングに来る車と出ていく車が片道1車線の小さな道路にひしめき、渋滞と混乱は必至だ。避難する住民のことを考えているとは到底思えない。
- 美山長谷運動公園の管理棟はとても小さく、屋内のスクリーニング場所には不向きではとの問いには、テント等を用意するのではと答え、またその設置等、スクリーニングに必要な県職員の到着が名田庄住民よりも遅くなる可能性を指摘したところ、関電職員の応援もあるのではとのこと。このような取り決めは本当にあるのか。
- 京都府民用のスクリーニング場所を「人道上、使わせてもらえるのでは」と発言。それを京都府は了解しているのかと問うと、「そうではない」とすぐに否定。「人道上」やむを得ない場合と、最初から混乱等を避けるためにスクリーニング候補地を決めることは別の問題だ。新たな候補地の問題をそのままにして、「人道上」の話にすり替えてはならない。



高浜町UPZとおおい町3地区 約9,000名の避難ルート

若狭町、小浜市、おおい町名田庄地区 約37,000名の避難ルート



参加した地元の方からは、自然災害の自主防災に関する集まりで「原発事故時のスクリーニング会場は『きのこの森』ですか?」との質問が出たそうだ(以前は原発から10km以内の「きのこの森」が指定されていたが、あまりにも近いため新たに2か所が決まった)。町の職員は「綾部」と答え、参加した住民は初めて聞く話に必至でメモを取っていたと紹介された。住民は知らされていないし、情報を得たいと思っている、説明会をぜひ開いてほしいと切々と訴えた。

浪江町から兵庫に避難されている菅野さんから、写真を見せながら事故直後から現在の浪江町の様子が紹介された。

21,000人の浪江町では、住民の1割が障がいをもっており高齢者も多く、住民が助け合いながら暮らしてきた。3月11日は、停電で携帯も通じず、情報も得られないまま町の判断で自主的に全町避難が決定された。事故直後の避難の車列は数十kmにもなり、普段は40分で通る道を10時間かけて避難したこと、避難所や無人となった浪江町の様子、汚染土を詰め込んだフレコンバッグが山積みになっている現在の写真などが紹介された。



事故が起これば町の職員が厳しくつらい環境に置かれること、それを自身の問題として考えてほしい。そして、3月10日につながる今を生きることのできる皆さんは、そのことを大切にしてほしい、私が失ったものを持っている皆さんにこそ考えてほしい。福島犠牲の上にある今だから、若狭の子どもたちを守り、原発の再稼働には反対して頂きたいと訴えた。

菅野さんの話に、職員は真剣な様子で写真を見ながら聞いていた。

課長は2か所のスクリーニング場所について、「納得できる説明は乏しいと、私も思う」と話し、やはりこのままでは住民の安全を守ることは難しいと感じた様子だった。それをこの場だけのものとせず、住民説明会を開くよう要望した。

◆昨年12月に配布を始めた「原子力防災のしおり」は作り直さなければならない 住民説明会に内閣府の出席を要請してみる(若狭町)

若狭町役場では、午後2時半~4時まで、当初の予定を超えての申し入れとなった。

若狭町は、昨年1月に防災計画を改定し、12月から「原子力防災のしおり」を住民に配布し始めていた。しかし「しおり」に示されているのは、高浜原発に近づきながら高速道路で避難するという以前の計画だけ。12月16日の「高浜地域の緊急時対応」で示された国道162号線経由のものとは全く異なる。スクリーニング場所も、高浜原発近くの「うみんぴあ大飯」「六路谷検問所」などが挙げられており、新たな「美山長谷運動広場」はない。課長は、防災会議で避難計画を見直し、できたばかりのカラーの「しおり」も作り直さなければならないと語った。

昨年12月25日に福井県庁で、県内の担当者を集めて「高浜地域の緊急時対応」について説明があったが、新たなスクリーニング場所についての具体的な話はなかったとのこと。このように、若狭町は30km圏内にもかかわらず、立地自治体以外には説明もなく、頭ごなしに県や内閣府が決めているようだ。やり取りで明らかになった点は：

- 美山長谷がスクリーニング場所になることについて、県からの説明はない。
- 新たに複数の場所が設定されたとの説明のみで、「道の駅若狭熊川宿」をスクリーニング場所とするルートもあり、避難経路は決めかねている(注:「道の駅若狭熊川宿」に設定した場合、福井県や内閣府等が定めた主な避難経路からは外れてしまう)。

- 美山長谷運動広場は、既に長谷地区 150 名の避難集合場所に指定されているが、そのことは知らなかった。これまでの候補地が原発から近すぎたので 30 km 近くに設定されたと思う。
- 美山長谷運動広場でスクリーニングを受けた後に兵庫に避難するためには、由良川にかかる橋を渡る。しかし重量制限 9 トンで、中型バスでも通れないが、そのことは知らなかった。
- この広場の屋内施設は、小さな管理棟だけだということも知らなかった。ここでは、外気を遮断して行うべき人のスクリーニングもできず。



唯一の屋内施設 小さな管理棟

内閣府等の昨年 12 月の避難計画では、若狭町だけでなく、小浜市（3 万人）、おおい町の名田庄地区（2,500 人）も同じ避難ルートになっており、美山長谷運動広場でスクリーニングを実施することになる。合計で約 37,000 人が使用し、自家用車に 3 人で乗り合わせても、12,300 台以上の車が押し寄せれば、避難道路の国道 162 号線・府道 12 号線は大渋滞となる。渋滞とスクリーニングの順番待ちで住民はさらに被ばくする。美山長谷の住民も避難できなくなる。これらについても、全く検討もされていない（詳しくは「参考資料」参照）。

住民説明会について、町としては予定しているが現状では具体的に決まっておらず白紙と答えた。「福井県は説明会を開く予定はないと言っている。内閣府は住民説明会のようなものには出ないようだ」と言うので、京都府北部の住民説明会には内閣府が出ていることを紹介し、町主催の説明会に出席を要請してほしいと伝えると「内閣府に要請してみる」と答えた。地元の参加者は、避難計画について住民に説明すべきで、早急に実施してほしいと要望した。

◆綾部 P A のゲート幅は 5 メートル。対面通行はできず、混乱は必至



綾部PAから総合運動公園へはこのゲートの鍵を開けてから

福井からの帰り、綾部パーキングエリア（P A）に立ち寄った。このゲートを通してスクリーニング場所の綾部総合運動公園に行くことになっている。ゲートの幅を測定してみると、5m だった。スクリーニングに向かう車両と終えて避難先兵庫に向かう車両は、このゲートで対面通行となるが、それは不可能だ。大型バスの幅は 2.5m、3 ナンバーの自家用車の幅は 1.75m。バス同士の対面通行は当然無理となる。バスと自家用車の対面通行も $2.5\text{m} + 1.75\text{m} =$

4.25m 、余地は 75cm。ゲートのポールと車両の隙間がそれぞれ 25 cm 程度では、対面通行は実質無理となる。実態を全く無視した、住民の安全など二の次の避難計画だ。

昨年 12 月の避難計画について、国は「具体的で合理的な計画ができた」といっているが、どれをとっても住民も職員も「被ばくも止む無し」という計画だ。自然災害と異なり、原発事故時に必要となるスクリーニングについて、新たな 2 か所は、福井県民も京都府民の安全も守ることはできない。このような無責任な形だけの計画で、とにかく再稼働を進める福井県や国の姿勢に改めて怒りを感じた。